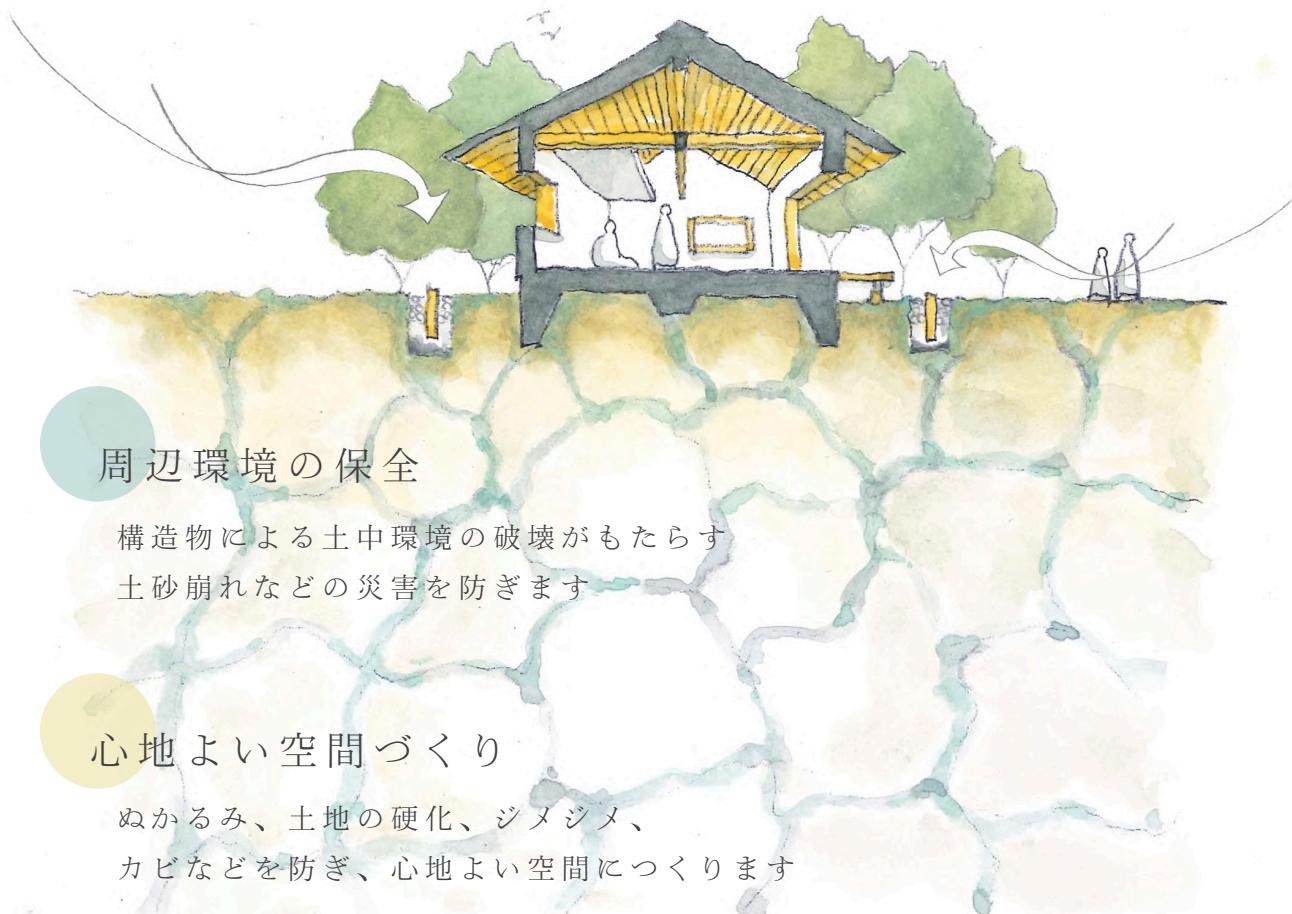


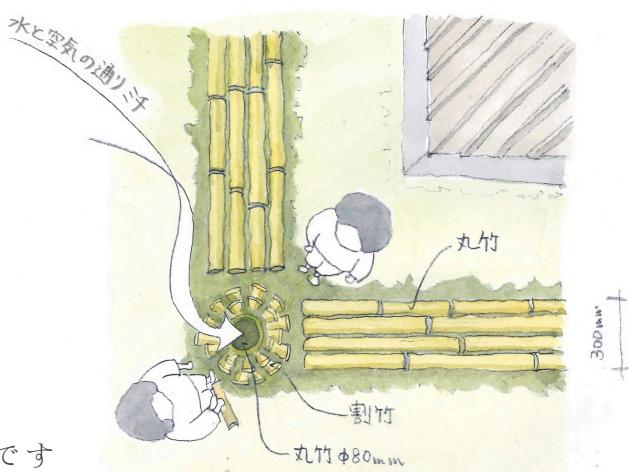
自然共生埋設工事について

住まう人と地球にやさしいお家づくりをしているアトリエデフは、
自然環境を守りながら心地よく暮らすために、自然共生埋設工事を提案します



植物を元気に

空気や水がよどみなく流れる
健全な土中環境をつくることで
お庭の植物が元気に育ちます



気候変動対策

埋設する竹や竹炭は放置竹林の竹です
森林環境の保全はもちろん、
炭素の固定による気候変動対策になっています

自然共生埋設工事では、放置竹林の竹を活用しています 「里山保全」×「土壤改良」×「気候変動対策」の一石三鳥の効果

竹は成長がとても早い植物で
多くのCO₂を吸収します
しかし放置竹林には枯れ竹や古い竹が多く
CO₂を吸収する力が弱まっているのです
継続的な整備により
CO₂をたくさん吸収する
「健康な竹林」を蘇らせます



竹炭がもつ無数の小さな穴は
土中の微生物のすみかとなったり
調湿効果をもたらしてくれます
青竹と竹炭を組み合わせることで
空気と水が滞らない
健康な土壤をつくります



一回の自然共生埋設工事を実施するために、*竹稈400本分の竹林整備が行われます

*竹稈3mでの算出

竹の生涯を10年としたとき、年間30棟分の工事を10年間続けると、

33,000kgのCO₂の吸収を促すことになります（自家用乗用車100km走行=15kgのCO₂排出）

また竹を枯れる前に炭にすることで、竹の中に蓄えられた炭素を半永久的に固定することができます

この「炭素固定」は世界的にも注目されている気候変動対策の一つです



アトリエデフ環境事業チーム「環と環」の取り組み



地域で環をつくりながら、自然資源活用と環境のことを探る

いま、日本各地で放置竹林が問題となっています。
プラスチックの普及や竹材・タケノコの輸入増加により、人々の暮らしの中で
竹が使われなくなったことが原因です。昔は身近だった竹林ですが、だんだん
見向きもされなくなり、荒れた竹林へと変貌してしまいました。

荒れた竹林をそのままにしてしまうと、森林環境の破壊を招くだけでなく、土砂崩れのリスク増加、
不法投棄の増加、野生動物と民家の距離を近づけることにもつながります。

竹は繁殖力がとても強く、あっという間に成長し増殖します。ほんの数年手入れをしないだけで、
手がつけられないほど荒れてしまうのです。

そうしないためには、毎年タケノコを食べたり、竹を切って使うことが必要です。

たのしく竹林プロジェクトでは、竹林を整備しながらその竹を活用することで、
竹を「害」ではなく「豊かな資源」とする新しい価値を見出していくます。
竹炭の他にも、竹ペレット、竹チップ・パウダー、竹薪、竹工作などにも
取り組んでおり、八ヶ岳エリアを中心に、地域のみなさんと一緒に定期的な
イベントやワークショップも行なっています。



↗
参加者
随時募集中

施工の流れ 1/2



構造物の周囲に、
深さ30cm×幅30cmの穴と
5mおきに深さ60cmの点穴を掘り
竹炭をいれる

→土中の空気・水の通り道をつくる
点穴：水を地下まで浸透させる



竹炭をいれる効果

- ①空気や水の滞りを防ぐ
- ②多孔質構造により、多様な微生物たちのすみかとなる



穴＆点穴にさらに細い穴をあける
60cmおきに深さ30cmのドライバー
を使って細い穴をあけ、竹炭を中に
落とし込む

→雨水等が地下に浸透しやすくなり
ぬかるみなどを防ぐ



「点穴」

真ん中に節を抜いた竹筒を立て、
周りに割った竹や枝葉、木の枝などの有機物を詰めて固定する

→土中の空気が外と出入りする道を
つくる

施工の流れ 2/2



点穴をつくっている様子



竹炭の上に、
木の枝を敷き詰める

→微生物活性化のために、
有機物をいれる
分解の遅い、太いものからいれる



木の枝の上から、
竹・竹の枝葉を敷き詰める

→微生物活性化のために、
有機物をいれる
分解の早い、細いものを重ねる



人が歩く場所は
竹チップでカバーリング

→歩きやすく、
自然に馴染む仕上がり